

○申請者の概要

(フリガナ) 名称(商号又は屋号)	チ バコウキョウカブシキガイシャ ちば工業株式会社
----------------------	------------------------------

※欄が不足する場合は、適宜枠を縦に拡げてください。ただし、本書全体で概ね8ページまでに収めてください。(欄外には記載しないでください。)

① 申請する補助事業(生産性向上)の種類(該当の番号に○を付けてください。)	
①	省人化(業務効率化)
2	生産量の増大
3	新事業展開・新商品開発
② 現在事業を行っている事業所の住所	
千葉県千葉市中央区市場町〇—〇	
③ 補助事業を実施する事業所の住所(②と同じ場合は、同上と記載)	
同上	
④ 現在の事業の概要	
※現在製造している製品、提供している商品・サービス等を具体的に記載してください。	
【事業概要】	
<p>当社は昭和49年に創業して以来、千葉県千葉市で50年続く金属加工業を営んでいます。創業当初は溶接加工を中心に行ってききましたが、顧客の要望もあり機械加工や各種プレス成型加工、溶接・組立まで幅広く対応してきました。</p> <p>現在は先代から事業を引き継ぎ、2代目社長として地域に居住する従業員30名とその家族を支えながら、事業の維持・拡大に向けて活動しています。</p>	
【提供している商品・サービス等】	
<p>当社は多品種少量の生産体制をとっており、受注生産と一部加工品では見込み生産を行っています。</p> <p>主なサービスは「機械加工」「プレス加工」「溶接・組立」です。機械加工では旋盤、フライス、穴あけ、研削加工などを行っています。プレス加工ではシャー切断、穴明、曲げ、カットなどを行っています。〇〇マシニングセンタを複数台保有しており、××業界からの受注が全体の売上げの8割を占めています。</p>	
保有機械設備の例(写真など)	

⑤ 生産性向上に向けた取組(補助事業)の必要性(自社の強み・弱み、課題、機会 等)		
【問題・課題の背景】		
まず、外部環境と内部環境を以下のようにまとめました。		
	プラス要因	マイナス要因
外 部 環 境	<機会> ・後継者不足、原材料高騰などを原因とする 同業他社の廃業・倒産などの増加 ・デジタル化に向けた動きが盛んになってきている	<脅威> ・少子高齢化による若手人材の雇用が困難 ・海外からの部品・材料調達、物価が不安定
内 部 環 境	<強み> ・材料調達から加工・組立まで一貫した生産体制を構築している ・多様なニーズに対応できる柔軟性	<弱み> ・受注量増加に対応できる生産管理体制が整備されていない ・要求される品質・納期への対応から長時間労働の常態化
<p>当社は顧客の要望を踏まえ材料の調達から加工、溶接・組立まで確かな品質と精度の高い製品を作り上げてきたことで長らく取引先から信頼されてきました。</p> <p>少子高齢化やコロナ後の景気の先行不透明感から同業他社の廃業や倒産が増えてきており、既存の取引先や、新規取引の相談から受注が増えてきている状況です。さらに、ミクロンオーダーや短納期への要求は年々増加傾向にあり、これまで培ってきた当社の柔軟性や技術を最大限に生かす必要が生じています。</p>		
【問題点】		
<p>一方で、事業の引継ぎを行う段階で生産管理体制に「ムリ・ムラ・ムダ」があると分析しています。</p> <p>現在の生産管理体制は、受注後に工場長が製造指示書を作成し、製造指示書に基づき各機械の加工時間を割り当てますが、急な注文が入った場合に改めて見込み生産の段取りをするなど負担が増大しています。そのため、現場のオペレーターが急な作業の変更に対応ができず、結果的に製品の加工待ち、品質にムラが発生、手戻りが発生する機会が増えてきました。</p> <p>さらに、無理に納期に間に合わせようとするや残業や休日出勤などを依頼することになり、高齢化するオペレーターへの負担が増えてしまい離職につながる事例が出てきました。</p> <p>さらに、若手オペレーターの募集がなかなか集まらないことで必要なオペレーターが集まらず、労働時間に悪循環が生じ始めています。</p>		
【課題と解決方針】		
<p>以上から、工場の生産管理体制を強化・充実させることで省人化を実現することが課題です。</p> <p>そのために、生産管理のデジタル化を図ることで生産計画の立案や工程を可視化することで品質の維持・</p>		

向上、納期短縮につなげていきます。

⑥ 導入する設備等の概要

※製品名、性能・スペック等を記載してください。

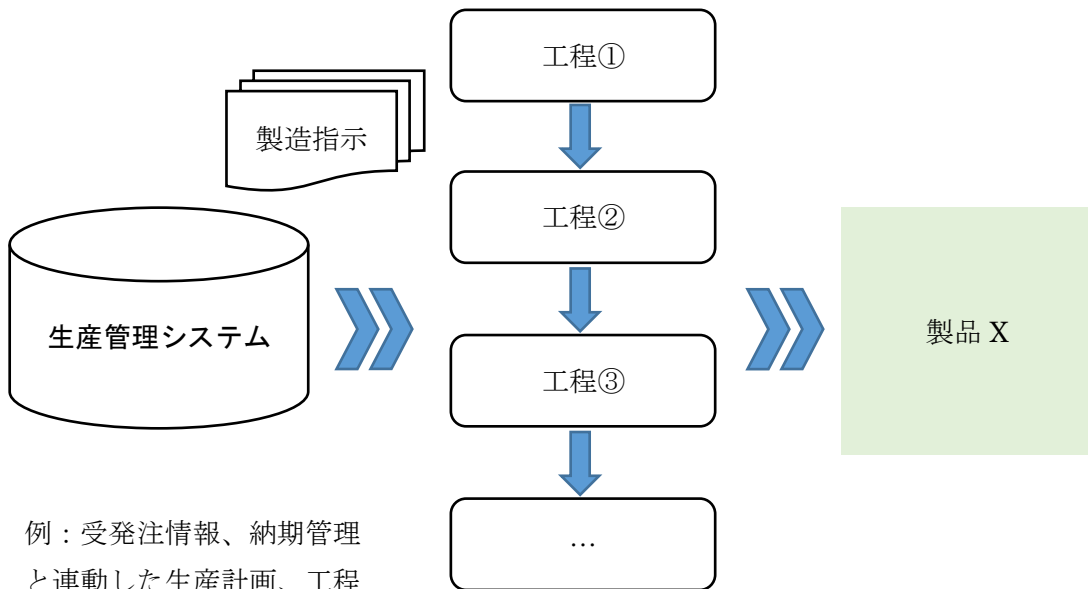
当社は生産管理システムを導入します。概要は以下の通りです。

生産管理システム「〇〇」(ベンダー企業名:株式会社〇〇)

受注生産・見込み生産の両方に対応できる生産管理システムを導入します。

導入金額総額:〇〇〇〇〇〇円

<イメージ例>



例：受発注情報、納期管理
と連動した生産計画、工程
進捗管理 etc...
作業指示・在庫管理

⑦ ⑥で導入する設備等によって期待される効果、新事業・新商品の計画

※①で1又は2を選択された方は、どのように生産性向上が達成される見込みなのか、具体的に記載してください。

※①で3を選択された方は、新事業又は新商品の詳細や、実施計画を具体的に記載してください。

既に取り組んでいる事業や、製造している製品、提供しているサービス等は、既存事業とみなされますので、「新事業展開・新商品開発」とは認められません。審査において、既存事業であることが判明した場合、不交付となりますので、ご注意ください。

生産性向上の達成見込みについて、以下にとおり記載します。

① 製造リードタイムが可視化され、納期見える化が実現します。

→急な受注による生産計画の変更が容易となることで、オペレーターの手待ちを減らすことができます。また、納期が見える化されることで、各オペレーターが余裕を持った生産活動が可能となります。これにより一人あたりの生産性が向上します。

② マネジメント・オペレーター双方の労働時間の適正化を実施します。

→全従業員の月の平均残業時間が30時間となっているところ、10時間未満に低減します。
従業員30名に対し合計で300時間の業務効率化につながります。
また、労働時間を適正にすることで休職・離職抑制につながります。

③ 若手オペレーターの採用

→ワークライフバランスを意識した働き方が実現し、若手オペレーターが入社後も働きやすい労働環境に整備することができます。

⑧ 補助事業の実現可能性									
(資金調達内訳)									
	自己資金	〇,〇〇〇,〇〇〇円							
	外部調達	〇,〇〇〇,〇〇〇円							
※事前相談 <input checked="" type="checkbox"/> 済(相談先金融機関:〇〇銀行) <input type="checkbox"/> 未									
(実施スケジュール) ※表を用いても構いません。									
実施スケジュールは以下のとおりです。									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
見積・ソフト選定	→								
交付決定		→							
発注			→						
システム登録				→					
テスト・納品					→				
説明会						→			
本稼働							→		